

飯館村社会福祉協議会



石黒優美佳さん(八木沢・芦原)

震災の日は中学2年生

今年の4月から社会福祉協議会で放射線相談員の仕事をしている石黒さん。「までの里のこども園」に通う2歳の長男・橙和くんのこども園選びが、村で働く動機になりました。「目が行き届く人数でみていただけるし、のびのび育つ環境もあって」。また、村内で暮らす親戚も子育てに協力してくれるそうです。職場では日々、班長と共に村民の自宅を訪問したり、地域サロンをサポートしたりしています。「村民の方々の所を回っていて、サポートができる存在に、村外で暮らす方々には寄り添えるような存在になりたいです」。

ふるさとの新たな担い手に

が村内で働いていると思われれます。今回お仕事の都合などで取材が叶わなかった皆さんも、ご対応をありがとうございます。お会いできた方には、今、村で働き感じていることを教えていただきました。

あの日の子ども達が

小学生・中学生の時代に震災を経験した子ども達が、あの日、避難で離れた村で、仕事をしています。お話を聞かせていただきたいと情報を収集したところ、すぐに20人程の情報が集まりました。実際にはもっと多くの方

高橋石材工業



高橋 敏さん(上飯樋)

震災の日は中学3年生

実家が営む会社に勤務し、村内外で石材を使用する建設工事に携わっている高橋さん。ものづくりが好きで、中学生の頃から、建設関係の仕事に就くことを考えていたそう。「村は静かで落ち着くし、何か村でやりたいという気持ちもありました。人が少ないからこそ地域密着で、周りの人に寄り添えるような仕事ができれば」。会社は避難先の福島市と村内工場の2拠点を活用して、現場の行き来も忙しい毎日ですが、商工会青年部や村のソフトボールチームにも参加し、先輩や同世代とのつながりも大切にしています。



庄司優美さん(草野)

震災の日は小学1年生

までの里のこども園

令和4年度から、給食調理員として、こども園で勤務しています。調理師の資格は高校時代に取得しました。震災時は小学1年生。姉と双子の弟がいて、震災直後の期間は車中泊も経験。小中学生時代のほとんどを仮設校舎で過ごしました。避難中に学んだ『ふるさと学習』は、「さまざまな形で飯館を知ることができて面白かった」と印象に残っています。また、父も村内企業に勤務していて、「飯館で仕事をしてみたい」と思っていました。「調理した給食を、子ども達がおいしそうに食べるのを見るとやりがいを感じますし、楽しいです」。

飯館村森林組合



高橋尚樹さん(草野)

震災の日は小学6年生

草野小学校の卒業式を前に震災が起き、中学生時代は、川俣高校の間借り校舎で1年半、仮設校舎で1年半を過ごしました。森林組合との出会いは偶発的で、職員募集のチラシがきっかけ。3年目の現在は、「ふくしま森林再生事業」について地権者に説明し同意を得る業務を担っています。森林再生の最前線で「的確な説明ができて同意を得られた時にはやりがいを感じます」と高橋さん。「自分の家も山を持っていますが、まだ手付かずの状態。自分がある間にその山も再生し、元のきれいな山に戻せたら」と願っています。